

平成 28 年 1 月 6 日

## 京口門だより No. 27

新しい年をいかがお迎えでしょう。良い年であるよう願っております。

「あらたまる年の激浪かがやけり」(佐野まもる)

年末から年始にかけて、帰省する人たちには、小さな子供たちが一緒にいるのを多くみかけます。子供は未来を築く大事な存在であり、また生命力の塊りのようにはつらつとしているものです。歳をとると子供の元気さにあやかりたいとも思います。昔は休みの季節には子供の声が溢れかえっていましたが、少子化というのでしょうか、元気な子供の声が聞けなくなっています。

子供も昔のように屋外で遊びまわることが少なく、屋内にこもって遊んでいるようです。生活習慣や食生活も昔とは変わってきています。鼻たれ小僧という言葉がよくつかわれていましたが、最近はそんな子供を見ることもなくなっています。泥にまみれて遊ぶこともなく、きれいで清潔な子供がおおくなっています。そうした子供の姿とともに、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎などのアレルギーの病気が増加しています。病原菌やアレルギーの抗原に敏感となり、抵抗性が減ってきているともいえます。鼻たれ小僧には喘息やアトピー性皮膚炎は少なかったように思います。

病気に対する抵抗力の低下だけでなく、心のひ弱さも問題となっているようです。少子化のせいもあるかもしれませんが、大勢の中でもまれて、自己主張をしたり、我慢したり、けんかをしたり、ともに喜んだりすることが少なく、狭い世界の中で閉じこもりがちではないのでしょうか。また親の教育についても、亡くなられたルバング島帰還兵の小野田寛郎氏は、「子を育てるのは親の責任であり、仕事をして金を稼ぐだけで、あとは金さえ出せば子供は育つというのは、豚に餌をやるのと同じですよ」と実に手厳しいことを言っておられました。小野田さんは、最近の子供たちのことを心配しておられ、しっかり子供を育てることは、大人のためでもあると言っておられました。

また精神医学者の木村敏先生は、「幼児のしつけの重要さは、叱られるという不快感とほめられる快感の繰り返し、次第に幼児の自発的な、目的をもった行動を示すことにつながる」と述べておられます。

子供はわれわれ大人の宝でもあり、大事にそだてる必要があります。

漢方とは少し違う話となりました。小児の病気に対する漢方もいろいろあります。またご相談下さい。

